

生産財・産業部門 最優秀賞

ニチレキ

製造温度を50℃下げても、スーパーなしなやかさ。クールで、タフなアスファルト誕生。

アスファルト舗装材は高温でつくる必要があります。しかし、環境への影響を考えると、できるだけ低温でつくりたい。そこでニチレキは「シナヤカアスファルト」のしなやかさはそのままに、舗装材を低温でつくる革新に挑戦。その結果、従来の約1/3程度低い130℃で舗装材を製造することに成功し、燃料消費で発生するCO₂排出量約22%削減を実現しました。増強にやさしく硬化した舗装品「スーパーシナヤカアスファルト」は、他のアスファルト舗装より2倍長持ちさせ、補修工事の回数を約1/2に減らすことも可能。お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのCO₂排出量削減ニーズに応え、持続可能な道づくりに貢献します。より長持ちする舗装材を、CO₂排出を抑えながらつくる。補修の回数も減らして、工事の際に発生するCO₂も削減する。それが、新たな価値を「プラス」する、私たちの「サステナビリティ」。つまり、ニチレキの「足すナビリティ」なのです。

足すトビリティヤ

ニチレキは、新たな価値を「プラス」するサステナビリティへ。

未来に誇り、「道」を創る。 NICHIREKI

〒103-8332 東京都千代田区丸の内3-1-1
<https://www.nichireki.co.jp/>

2022年7月26日・日経朝刊全30段二連版

ニチレキ

(シリーズ2点)

企画・制作 日本経済社

- CD 河野直之 (日本経済社)
- AD 朝比奈綾 (日本経済社)
- D 朝比奈綾
- C 若林 剛 (フリー)
- Ph 雨堤康之 (雨堤写真事務所)
- Sty 相波美根子 (フリー)

傷んだ路面を再利用して、道路強靱化。テクノロジーの「二重奏」で実現します。

道路を根本的になおす時には、まず傷んだ舗装を取り去った後、新たな材料を現場に投入して埋め戻す工程が必要でした。しかし、ニチレキの「スウェーメントRC工法」なら傷んだ舗装をその場で再利用。廃棄をほぼ100%減らすことができます。さらに、この工法で構築した基礎の上に長寿命舗装材「スーパーシナザカファルト」で舗装すると、従比比べて2倍以上も長持ちする道がつけられるのです。又たな道は補修回数も減るので、補修工事で発生するCO₂を約40%も削減できます。また、「スウェーメントRC工法」は、地質にも強いので防炎・減震といった効果も期待できます。廃棄しなかった傷んだ舗装をリサイクルする。さらに、これまでにない強靱さを加えていく。それが、新たな価値を「プラス」する、私たちの「サステナビリティ」。つまり、ニチレキの「足すサステナビリティ」なのです。

足すサステナビリティ

未知に挑み、「道」を創る。
NICHIREKI
 〒110-8322 東京都千代田区丸の内1-6-10
<https://www.nichireki.co.jp/>

ニチレキは、新たな価値を「プラス」するサステナビリティへ。

2022年8月1日・日経朝刊全30段二連版

生産財・産業部門 優秀賞

コマツ

ゲームのように指先でミニショベルを動かす。
そんな時代がやってきます。

多くの子どもは、建設機械が好きだ。
しかし、大人になって
建設機械のオペレーターになる人は多くない。
誰もがもっと気軽に
建設機械を操作できる方法はないだろうか。
そこでコマツが開発したのが、
コントローラーで遠隔操作できる
フル電動ミニショベル。
子どもの頃から馴染みのあるコントローラーなので、
建設機械を直感的に動かせる。
そして遠隔操作なので、働き方も可能性が広がる。
たとえば運転席に居ることなく、
心地よい室内から遠隔で動かすことができれば、
労働現場は快適になる。
世界の工事現場をリモートでつなぐ。
稼働の日本から雇員の現地工事に参加する。
という働き方も可能になるかもしれない。
近い将来、建設機械の操縦は、
スマートな仕事になることだろう。

今までは機械に合わせて、
人の働く場所や操縦方法を決めていたが、
これからは人に合わせて、
機械が適応する時代になる。
建設機械とDX。その相性は意外と良くない。
夢のような現場が現実になる日は、
そう遠くないのかもしれない。

誰もが使える機械なら、
誰もが働ける現場になる。



100

KOMATSU
Creating value together

2022年2月24日・日経朝刊16-17面全30段二連版

コマツ

(シリーズ2点)

企画 コマツ、keyvisual.jp、電通
制作 keyvisual.jp、電通、SUN-AD、ツチノコデザイン、ブジョウ・アソシエイツ
CD 中澤真純 (keyvisual.jp)・岩田純平 (電通)
AD 中澤真純
D 土屋正人 (ツチノコデザイン)・奥村一樹 (ブジョウ・アソシエイツ)
C 岩田純平
AgPr 住友幸代 (電通)
Pl 櫻木浩一郎 (電通)
SPl 林 孝裕 (電通)
MPI 佐藤由基 (電通)
Ph 渡会審二 (フリー)
製版 榎本見之 (日庄)

広 告

このコントローラーが 動かすものは ゲームではありません。 さて何でしょう？

答えはコマツの「フル電動・オペレーター非搭乗式」ミニショベル。
 身近なゲームコントローラーを使う感覚で、好きな場所から指先で遠隔操作できたら
 建設機械のオペレーターの仕事は、働きやすい、快適なものになる。
 人手不足や労働環境改善のためにコマツが生み出したアイデアです。

電動化して騒音や排熱、排ガスを大幅に抑えた環境に優しい機械で、理想の現場を実現する。
 未来のミニショベルの開発秘話は日経電子版の広告特集で。

中面のコマツの全面広告もぜひご覧ください。





日経電子版の広告特集は
 こちらからご覧ください！
<https://ps.nikkei.com/komatsu2022/>



KOMATSU
 Creating value together

2022年2月24日・日経朝刊32面全5段

生産財・産業部門 優秀賞

クボタ

未来のために、過去をゆく。
 厚の先に開かれたのは、
 時を築ける使命。

株式会社クボタは、1915年に創業し、100年以上の歴史を誇る。農業機械、建設機械、産業機械、民生機械、船舶機械、航空宇宙機械、防衛機械、環境機械、エネルギー機械、情報機械、サービス事業など、幅広い分野で事業を展開しています。

2021年12月20日・日経朝刊全30段二連版

株式会社クボタ
 For Earth, For Life
 Kubota

2021年12月20日・日経朝刊全30段二連版

クボタ

- 企画 電通
- 制作 ntd inc.、GunsRuck
- ECD 西田新吾 (電通)
- CD 中嶋貴久 (ntd inc.)
- AD 中嶋貴久
- D 菅原良太 (ntd inc.)
- C 西田新吾
- Pr 中村 悟 (GunsRuck)
- Ph 阪野貴也 (フリー)

商社・エネルギー・公共部門 最優秀賞

伊藤忠商事



私たちの朝食はグローバルだ。
 コーヒー豆はグアテマラ、バナナはフィリピンから。
 10月16日の世界食料デーに、
 目の前の食材がどんな長い旅をしてきたか想像してみよう。
 それだけできっと、食べ方も変わるはずだから。
 伊藤忠商事も生活総合会社としてできることを。
 地球への負担が少ない食材の調達方法を選ぶ。
 生産者の働き方からビジネスを考える。

いただきますの前と、ごちそうさまの先で、
 私たちは今日も商いをする。

Dear LIFE_生活って宇宙だ。



2021年10月15日・日経朝刊全15段

伊藤忠商事

(シリーズ2点)

企画	電通、CC INC.、GLIDER	BrDr	工藤拓真 (dof)
制作	CC INC.、GEEK PICTURES INC.	Pl	志伯健太郎 (GLIDER)
CD	戸田宏一郎 (CC INC.)	Ph	戎 康友 (戎康友写真事務所)
AD	戸田宏一郎	R	吉川たけし (Tigris)
D	田代祐美子 (CC INC.)	製版・印刷	岡本 孝 (精美堂)
C	有元沙矢香 (電通)	PM	宮嶋奈々海 (GEEK PICTURES INC.)
Pr	稲留福太郎 (GEEK PICTURES INC.)	AE	小田純生 (電通)、高橋知也 (電通)、盛晋太郎 (電通)
CPr	明石幸恵 (電通クリエイティブフォース)		



2022年1月4日・日経朝刊全30段二連版

商社・エネルギー・公共部門 優秀賞

農林水産省

食から日本を考える。

NIPPON
FOOD
SHIFT

「食」は人を育み、生きる力を与え、そして社会を動かす原動力となるもの。すべての人は「食」と無関係で生きることはできません。日本社会が大きな変化に直面している今、これからの「食」はどうあるべきか。私たちが真摯に向き合わなければならないテーマは少なくありません。食料自給率、環境との調和、新しい生活様式、健康への配慮、食育、サプライチェーンの状況、昨今では輸入原材料の高騰など、日本の「食」の課題は山積。「食」について考えることは、これからの社会を考えること、人の生き方を考えること。変えるべきは変え、守るべきは守り、新しい挑戦を応援しながら、今こそこの時代にふさわしい日本の「食」のあり方を考える機会ではないでしょうか。消費者、生産者、食品関連事業者、日本の「食」を支えるあらゆる人々と行政が一体となって、考え、議論し、行動する国民運動、「ニッポンフードシフト」が進行中です。

 **GO TO NEXT PAGE**

農林水産省

ニッポンフードシフト公式サイトはこちら



2022年1月10日・日経朝刊13面全15段

農林水産省

(シリーズ3点)

企画 電通、コトバ
制作 電通、コトバ、ジェ・シー・スパーク
CD 山本高史 (コトバ)
AD 小島洋介 (電通)
D 藤田伸二 (ジェ・シー・スパーク)
C 山本高史、田村直人 (電通)
Pr 小峰賢哉 (農林水産省)

食から日本を考える。
NIPPON FOOD SHIFT

「食」を考える
 若い力が
 あります。

食の未来を担う若手農業者の活躍を伝える「食から日本を考える」キャンペーン。全国の若手農業者の活躍を伝えるべく、各地の農業者と食の専門家とが連携し、食の未来を共に考える。この取り組みを通じて、食の未来を担う若手農業者の活躍を伝えるとともに、食の未来を共に考える。この取り組みを通じて、食の未来を担う若手農業者の活躍を伝えるとともに、食の未来を共に考える。

2022年1月10日・日経朝刊14-15面全30段二連版

NIPPON FOOD SHIFT

食から日本を考える。

食に関わる課題として、今世界では人口増加と経済発展で需要が増え、地球温暖化や自然災害により食料供給の安定性が脅かされている。国内では、資材や原料の輸入に起因した一次産品や食品価格の高騰など食の課題が山積する。農林水産大臣の金子原二郎氏と、農家・漁師の産直ネット通販「食べチョク」を運営する株式会社ビッドガーデン社長の秋元里奈氏に、日本の食の現状と未来について話しを聞いた。



食べチョク 代表
秋元 里奈氏

「食べチョク」は、農産物や水産物の産直ネット通販サービスです。消費者が産地から直接産物を買える仕組みで、産地と消費者をつなぐ役割を果たしています。秋元氏は、このサービスを通じて、産地の課題を解決し、消費者に新鮮な産物を届けることに力を注いでいます。

若い世代の力を、食を創る現場へ

秋元氏は、若い世代の力を食の現場に活かすことを目指しています。産地では、高齢化が進んでおり、若い世代の若手育成が急務です。食べチョクを通じて、産地と消費者をつなぐことで、産地の課題を解決し、若い世代が食の現場で活躍する機会を増やしたいと考えています。



農林水産大臣
金子 原二郎氏

農林水産大臣の金子原氏は、食の課題を解決するために、産地と消費者をつなぐ取り組みを推進しています。食べチョクのような産直ネット通販サービスの普及を促し、産地の課題を解決し、消費者に新鮮な産物を届けることに力を注いでいます。

金子原氏は、食の課題を解決するために、産地と消費者をつなぐ取り組みを推進しています。食べチョクのような産直ネット通販サービスの普及を促し、産地の課題を解決し、消費者に新鮮な産物を届けることに力を注いでいます。



全国の生産者を訪問して「食べチョク」を推進。

広告

私たちも、ニッポン フード シフト。



大衆の信頼を築き上げていきます
おおむぎ工房

養蜂加藤美峰園本舗



北川村ゆず王国

救心製薬株式会社

クミアイ化学工業株式会社

サクラ印 ハチミツ



JAグループ
用さう、大地と地域のからい。

選 日本語しずしモン

選 日本語しずしモン

明宝ハム

MORINAGA

山田水産株式会社
YAMADA SUISAN CO.,LTD.

株式会社リテールパートナーズ

龍角散
Ryukakusan Co., Ltd.

お口の恋人
LOTTE

2022年1月10日・日経朝刊16面全15版

商社・エネルギー・公共部門 優秀賞

三井物産

いま、世界はかつてない転換期を迎えている。

新しい社会の、新しい課題。

これまでの常識が通じない、難問の数々に前に私たちは思う。

この変化の時代に、自分は何ができるだろうと。

三井物産。それは、多様な「志」の集う場。

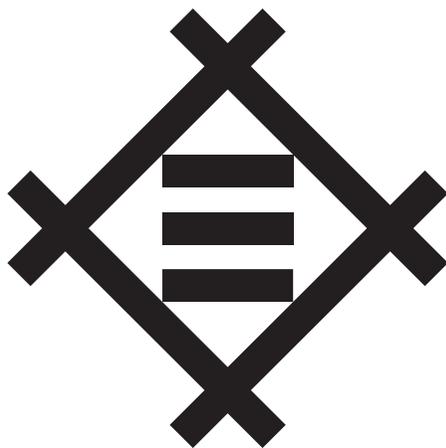
一人ひとりが考え、動き、社会の課題と向き合い、

つながって新たな価値を生んでいく。

そう、どんな変革も、始まりは誰か一人の意志だから。

私たちは、その「最初の一人」でありたい。

前へ、わずかでも、前へ。その一歩一歩が、世界を動かしていく。



その志で、 世界を動かせ。

MITSUI & CO.

2022年1月3日・日経朝刊全30段二連版

三井物産

企画 三井物産、電通、サムライ、ホンシツ
 制作 電通
 ECD 佐藤可士和 (サムライ)
 CD 小布施典孝 (電通)
 AD 熊谷由紀 (電通)
 D 石井浩一 (アドブレン)、原田菜帆 (アドブレン)、高橋里衣 (アドブレン)
 C 早坂高樹 (電通)、斉藤賢司 (ホンシツ)
 Pr 早川昭仁 (電通)
 CPr 辻未雅菜 (電通クリエイティブフォース)
 Pl 福井康介 (電通)
 製版 戸崎紀明 (日庄)
 AE 田中健仁 (電通)、山内伸章 (電通)、原澤秀典 (電通)

自動車・運輸・輸送部門 最優秀賞

本田技研工業



ありがとうフェラーリ
 ありがとうロータス
 ありがとうブラバム
 ありがとうマクラーレン
 ありがとうウィリアムズ
 ありがとうルノー
 ありがとうメルセデス
 ありがとうトヨタ

初めてF1に挑戦した
 1964年のあの日から今日までの、
 すべてのライバルに感謝します。
 すべての応援してくれた人、
 すべてのドライバー、
 厳しい戦いをもにくり抜けてきた、
 レッドブル、アルファタウリ、
 すべての仲間へ感謝します。

じゃ、最後、行ってきます。

HONDA

2021年12月12日・日経朝刊全15段

本田技研工業

(シリーズ2点)

企画 電通
 制作 P.I.C.S./Fabrica
 ECD 後藤彰久 (電通)、東畑幸多 ((つづく))
 AD 今井祐介 (電通)
 D 大淵寿徳 (Fabrica)、藤谷力澄 (Fabrica)
 C 三島邦彦 (電通)
 Pr 池田 了 (P.I.C.S.)

CPr 長谷川豊 (電通クリエイティブフォース)、
 吉井俊太郎 (電通クリエイティブフォース)
 PI 加我俊介 (電通)、鈴木健太 (電通)、三浦麻衣 (電通)
 Ph 若木信吾 (ヤングトゥリー)、日野敦友 (ヤングトゥリー)
 R 津金卓也 (フリー)
 PM 永井聖香 (P.I.C.S.)
 AE 岡見光仁 (電通)

自動車・運輸・輸送部門 優秀賞

日本貨物鉄道



競争から協調へ。

必要な時に、必要な状態で、必要な場所に届ける。
 その使命は、それぞれが個性を発揮し、
 彼此の役割を全うし合うことで、果たされる。

JR貨物グループは今、総合物流企業グループとして、
 環境特性と労働生産性に優れた鉄道輸送が最大限に役割を担えるよう、
 貨物数を高度化し経営機能を上昇。
 トラックなどのシームレス化を進めている。
 その先にあるのは、すべての輸送モードの特性を活かし最適解に導く
 「モーダルコンビネーション」という理想だ。

物流は、競争から協調へ。私たちは、その流れを牽引し、
 サステナブルな社会を築くために前進を続けていく。

挑戦、そして変革

Challenge and Change
JR貨物グループ



2022年8月31日・日経朝刊全30段二連版

日本貨物鉄道

企画 日本貨物鉄道、ビジュアルメッセージ研究所、日本経済社
 制作 ロボッチ
 CD 山本洋司（ビジュアルメッセージ研究所）
 AD 長尾 隆（ロボッチ）
 D 長尾 隆
 C 上田伸彦（日本経済社）
 Pr 西田順弥（日本経済社）
 Ph 堀口真澄（堀口写真事務所）

自動車・運輸・輸送部門 優秀賞

ダイハツ工業

走りだせ。
小さなクルマに
ロマンをのせて。



20TH ANNIVERSARY
COPEN

小さくクルマにも、愉しさやこだわりを
そんな想いから生まれた初代コペンが、発売されてから20年。
みなさまの愛があったから、今日この日まで、
走り続けてこれたのだと思います。
20周年の感謝を込めて、ダイハツは、コペンをこれからも。

らしく、ともに、軽やかに Light you up DAIHATSU

2022年6月20日・日経朝刊全15段

ダイハツ工業

企画 博報堂、Hakuhodo DY Matrix
制作 amana、ADSALT
ECD 漆谷 浩 (Hakuhodo DY Matrix)
CD 伊藤奈葉 (博報堂)
AD タルボット才門 (博報堂)
D 柚木未生 (ADSALT)、多田瑛利 (ADSALT)
C 平佐 慧 (博報堂)
Pr 佐藤慎ノ介 (amana)

APr 大野瑛里加 (amana)
L-Crd 賀部祥平 (digital square)
Ph 安永ケンタウロス (kKkK inc.)
R 古田雅彦 (amana)
AE 君島良徳 (博報堂)、桑江佐和 (博報堂)、徳田佳希 (博報堂)、
立花 創 (博報堂プロダクツ)